

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第 6 号を下記のとおり発表したの送付します。

令和 8 年度病虫害発生予報第 6 号

令和 8 年 8 月 27 日
岡 山 県

予 報 概 評

作物名	病 害 虫 名	発 生 時 期	発 生 量
水 稲	穂いもち 紋枯病 白葉枯病 穂枯れ もみ枯細菌病 トビイロウンカ	並 — — — —	やや少 並 並 やや多 やや多 やや少
ダイズ	べと病 紫斑病 葉焼病 ハスモンヨトウ カメムシ類	— — — — —	やや少 並 並 並 並
モ モ	モモハモグリガ ハダニ類 ウメシロカイガラムシ	遅 — やや早	やや少 やや多 やや少
ブドウ	褐斑病 べと病 さび病 ブドウトラカミキリ	— — — —	並 並 並 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病 うどんこ病	— — — —	並 並 やや多 やや少
トマト	疫病 斑点細菌病 葉かび病	並 — —	並 並 やや少
アブラナ科 野 菜	アブラムシ類 モザイク病 コナガ ハイマダラノメイガ	— — — —	やや多 やや多 並 やや多
キ ク	ナミハダニ	—	やや多

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 穂いもち (晩生種)

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. イネ (晩生種) の生育は平年並である。

イ. 8月12、13日の巡回調査によると、南部地帯の穂いもちの発生は場率は23.8%で、平年(40.3%)より低かった。

ウ. 8月20日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 紋枯病 (晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月12、13日の巡回調査によると、発生は場率は10.1%で、平年(31.5%)より低かった。

イ. イネの茎数は平年並である。

ウ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件となる。

(3) 白葉枯病 (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月12、13日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

(4) 穂枯れ (ごま葉枯病菌による穂枯れ、晩生種)

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月12、13日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生は場率は38.1%で平年(19.7%)より高かった。

イ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件となる。

(5) もみ枯細菌病 (晩生種)

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 前年度の発生量は平年並であったことから、本年度の種子の保菌率は平年並と考えられる。

イ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件となる。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における誘殺は認めておらず、8月1半旬～4半旬の平年(1.6頭)より少なかった。

イ. 8月12、13日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で平年（8.0%）より低かった。

（ダイズ）

（1）べと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや抑制する条件である。

（2）紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

（3）葉焼病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

（4）ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察ほ場（赤磐市）のフェロモントラップにおける8月1半旬～4半旬の誘殺数は896頭と平年（1186.9頭）よりやや少なかった。

イ. 8月12、13日の巡回調査によると、白化葉の発生ほ場率は1.6%で平年（2.2%）並であった。

ウ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、本虫の増殖をやや助長する条件となる。

（5）カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～4半旬の誘殺数は、アオクサカメムシが0頭で平年（6.4頭）より少なく、イチモンジカメムシが8頭で平年（16.4頭）より少なかった。

イ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、本虫の増殖をやや助長する条件となる。

2. 果 樹

（モ モ）

（1）モモハモグリガ

予報内容

発生時期 遅

発 生 量 やや少
予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける 8 月 1 半旬～4 半旬の誘殺数は 0 頭で平年 (0.3 頭) よりやや少なかった。

イ. 8 月 6 日の県南部における巡回調査では発生を認めず、平年 (0%) 並であった。

(2) ハダニ類

予報内容

発 生 量 やや多

予報の根拠

ア. 8 月 6 日の県南部における巡回調査によると、発生ほ場率は 53.6% で平年 (31.8%) よりやや高かった。

イ. 8 月 20 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 収穫後であっても夏から秋にかけて多発すると落葉しやすくなって次作の果実の品質に悪影響を及ぼす恐れがあるため、今後の発生に注意する。

(3) ウメシロカイガラムシ (第 3 世代)

予報内容

発生時期 やや早

発 生 量 少

予報の根拠

ア. 7 月 21 日の巡回調査では第 2 世代成虫の発生を認めず、発生ほ場率は、平年 (0.0%) 並で、発生程度は平年並であった。

イ. 8 月 20 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 近年は、ウメシロカイガラムシと外観および被害が類似するが、発生時期が異なる近縁種のクワシロカイガラムシが優占しているほ場もある。防除が困難な場合は、優占種を把握する必要がある。

(ブドウ)

(1) 褐斑病

予報内容

発 生 量 並

予報の根拠

ア. 8 月 6 日の巡回調査によると、発生ほ場率は 54.5% で平年 (45.9%) 並であった。

イ. 8 月 20 日発表の 1 か月予報によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) ベと病

予報内容

発 生 量 並

予報の根拠

ア. 8 月 6 日の巡回調査によると、発生ほ場率は 100% で、平年 (90.0%) 並であった。

イ. 8 月 20 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(3) さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で、平年(15.1%)よりやや低かった。

イ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件となる。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

3. 野 菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月20、24日の巡回調査によると、発生ほ場率は57.1%で平年(59.2%)並であった。

イ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月20、24日の巡回調査によると、発生ほ場率は42.9%で平年(52.0%)並であった。

イ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月20、24日の巡回調査によると、発生ほ場率は57.1%で平年(34.4%)よりやや高かった。

イ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件である。

(4) うどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月20、24日の巡回調査では発生を認めず、平年(64.3%)より低かった。

イ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月20日の巡回調査では発生を認めず、平年(1.3%)並であった。

イ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 斑点細菌病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月20日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件である。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月20日の巡回調査によると、発生ほ場率は28.6%で平年(45.4%)よりやや低かった。

イ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量	アブラムシ類	やや多
	モザイク病	やや多

予報の根拠

ア. 県予察ほ場(赤磐市)の黄色水盤における8月1半旬～4半旬の飛来数は324頭で、平年(125.6頭)より多かった。

イ. 8月20日の巡回調査によると、ダイコンでのアブラムシ類の発生ほ場率は0%で平年(4.5%)並であった。

ウ. 8月20日の巡回調査ではモザイク病の発生を認めず、平年(13.5%)並であった。

エ. 8月20日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(2) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察ほ場(赤磐市)における8月1半旬～4半旬のフェロモントラップの誘殺数は5頭で、平年(2.2頭)並であった。

イ. 8月20日の巡回調査によると、ダイコンでの発生ほ場率は0%で平年(43.9%)より低かった。

(3) ハイマダラノメイガ

予報内容

発 生 量 **やや多**
予報の根拠

ア． 8 月 20、24 日の巡回調査によると、県南部のチンゲンサイでの発生
ほ場率は 42.9%で、平年（34.6%）よりやや高かった。

イ． 8 月 20 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量
は平年並か少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア． 幼苗期に加害されると被害株は心止まりになるので、早期発見・早
期防除に努める。

イ． 育苗期間中に寒冷紗で被覆を行うと、成虫の侵入・産卵防止に有効
である。

ウ． 薬剤感受性の低下が懸念されるので同一系統の薬剤の連用を避け、
薬剤以外の防除対策を組み込む。

4. 花 き (キ ク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア． 8 月 20、24 日の巡回調査によると、発生ほ場率は 71.4%で、平年
（28.9%）よりやや高かった。

イ． 8 月 20 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量
は平年並か少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

